



# 一般社団法人日本環境教育学会 第31回年次大会オンライン大会テーマ

## 「新型コロナウイルスに対応した環境教育の 可能性—オンライン技術の活用法を探る」

### 目次

1. 開催概要	1
2. 参加者の皆様へ	3
3. 口頭発表について	3
(1)発表形式	3
(2)ミーティングルームへの入室 [発表者及び聴講者の皆様]	4
(3)参加者の皆様に必ず守っていただきたいこと	4
4. ポスター発表について	4
5. 自主課題研究	5
6. 大会参加者向けイベント	6
7. 一般公開シンポジウム	7
8. 研究発表プログラム	8
<口頭発表>	8
<ポスター発表>	13
実行委員会名簿	14

### 1. 開催概要

- 期 間 : 2020年8月21日(金)~8月23日(日)
- 会 場 : インターネット会場 (大会特設ウェブサイトおよびZoom会議室)
- 主 催 : 一般社団法人日本環境教育学会 (第31回年次大会実行委員会)
- 後 援 (予定) : 文部科学省、環境省、経済産業省、国土交通省、農林水産省

## 〈大会日程〉

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月21日 (金)						各種委員会	理事会	社員総会			直前講習会	
8月22日 (土)	口頭発表					大会企画 公開 シンポジウム	会員懇談会	交流企画				
	ポスター発表											
	国際交流企画											
8月23日 (日)	口頭発表					自主課題 研究	「原発事故後の福島を 考える」研究会		環境教育プログラ ムの評価研究会			
	英語発表											
	ポスター発表											

## 〈インターネット会場〉

本大会ではオンライン会議システム Zoom を使用します。ご自身のパソコン、タブレット、スマートフォンからインターネット接続でご参加いただけます。発表者音声とプレゼンスライドを遠隔配信し、聴講者側のパソコン等に表示されます。

- 大会参加を希望される前に、一度は必ずログインテストをお願いします。

<https://zoom.us/test>

- 8月21日(金)の zoom 直前講習会「オンライン大会のイメージ・トレーニング」にご参加ください。
- 発表者(希望者)は、8月19日(水)、または20日(木)に事前の「動作確認チェック・テスト」を行うことができます。詳細については実行委員会からの連絡をお待ちください。

### Zoom 動作環境

- ・ 現行のほとんどの端末で動作可能です。
- ・ 他に必要なものは、インターネット接続、スピーカーとマイク、ウェブカメラ(内蔵または外部)です。
- ・ なお、マイクとウェブカメラがなくても、音声とスライドのみを聴講することは可能です。

## 〈オンライン大会サポート会場 松本大学〉

開催日当日は、オンライン大会を円滑に進めるためにサポート会場(事務局機能のみ)を設け、当日の問い合わせをメール、および電話で受け付ける予定です。

## 2. 参加者の皆様へ

〈Zoom によるビデオ会議に参加するには〉

- Zoom (ズーム) とは、米国 Zoom 社が提供するビデオ会議・ウェブセミナー (ウェビナー) のためのアプリケーションです。パソコンやスマートフォンなどの機材とインターネット接続が必要となります。
- Windows、Mac のいずれのパソコン用にも無償でアプリが用意されています。この5月以前にインストールした方は、セキュリティなどに対応した Zoom 5.0 (以上) にアップデートしておく必要があります。
- スマートフォンやタブレット端末 (Android、iOS) でも接続は可能で、視聴するだけならスマホ・タブレットでも可能ですが、発言したり、チャットに書き込んだりするには、パソコンの方が操作は容易なようです。準備できるならパソコンでの参加をお勧めします。ノートパソコンでも必ず電源を接続ください。
- 無線 LAN、Wi-Fi でもインターネット接続できますが、一般に有線 LAN の方が高速で安定しています。
- 参加に際し、ご自身で Zoom のアカウントを作成 (無料) する必要はありません。
- ノートパソコンにはたいていスピーカーとマイク、カメラが内蔵されていますが、デスクトップ機の場合には別途カメラ・マイクなど機材を用意する必要があります。
- ヘッドセットあるいはマイク付きイヤホンをお持ちの場合は、それらの使用をお勧めします。
- Zoom で一時に参加できる会議は1つだけに限られます。別の「会議室」に移動して参加するためには、今参加している会議から退出しなければなりません。
- Zoom のこれら機能を試しておきましょう：ミュート・反応ボタン (拍手・いいね) ・挙手・チャット等

〈発表者の皆様へのお願い〉

- 接続帯域 (速度) が十分確保できる環境での接続、可能ならば有線 LAN での接続を推奨します。
- ポケット Wi-Fi やスマホとのテザリング、帯域制限された低速回線などでは通信が不安定となり、画面共有したスライドが不鮮明に掲示されたり、音声途切れてしまったりするなどのケースが発生します。
- 事前に入念なテストを行ってください。

## 3. 口頭発表について

日時：8月22日(土) 9:00~13:40、8月23日(日) 9:00~13:40

### (1) 発表形式

口頭発表は zoom を使い、スライドを画面共有しながら、カメラ (ビデオ) を on にして発表して頂きます。

- 発表者は、はじめに発表タイトルと発表者名をご紹介ください。
- 質疑応答は基本的にはライブで音声 (マイク) とカメラ (ビデオ) を on にして座長の指示に従って、行ってください。またチャット機能を使って質問を受け付けることもあります。
- 発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。
- 総合討論では、質問や討論が特定の発表者の発表内容に偏らないよう配慮してください。

1件 15分 (発表 10分、質疑 5分) で進行いたします。総合討論 (10分) 後の休憩 (10分) では、座長交代や発表者のマイク・カメラチェック等、円滑な運営にご協力ください。発表中の合図は次の通りです。

- 第1鈴：8分
- 第2鈴：10分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください）
- 第3鈴：15分（質疑終了です。）

※ 発表者はミーティングルームに入室したうえで、各発表時間の5分前に、サポートスタッフの指示に従い、マイクとカメラ（ビデオ）をonにして音声と映像のチェック、また、画面共有機能を用いて発表資料を映し出せるかチェックしてください。

## （2）ミーティングルームへの入室 [発表者及び聴講者の皆様]

- ・ 会場ごとに個別のミーティング ID が割り振られます。大会専用ページに掲載される ID とパスワード（事務局からメール）を確認し、入力してください。
- ・ 入室の際は、Zoom 上で表示される名前を「氏名（所属）」と設定する。例：長野太郎（松本大学）  
※発表者の場合は氏名の前に【発表者】を入れる。例：【発表者】長野花子（松本大学）



Zoom クライアント（事前にインストール）



ウェブ版

## （3）参加者の皆様に必ず守っていただきたいこと

- 発表中の映像・音声・テキストログ等を第三者に再配布（SNS への投稿等）しないでください。また発表者に無断で録画などはしないでください。
- 接続数に限りがあるため、複数のデバイスを使っての同時接続はしないでください。
- 発表時間中のチャット機能の使用は控えてください。発表終了後に、チャットを使って質問を受け付けるかどうかは各セッションの座長の指示に従ってください。
- 円滑な進行にご協力ください。

※ 円滑に進行させるために必要な場合は、司会者、サポートスタッフの判断で、参加者のマイクやカメラ、画面共有などを強制的に off にする場合があります。

## 4. ポスター発表について

- ・ ポスターは1件につき1ファイルとし、PDF形式で10メガバイト以内であれば、形式は自由とします。従来のA判1枚のものでも、スライド形式の複数枚のものでも受け付けます。
- ・ 作成いただいたポスターは8月11日(火)18時までに大会実行委員会 ([online2020@jsfee.jp](mailto:online2020@jsfee.jp)) までメールで提出してください。容量が大きい場合はファイル転送サービス等の利用もご検討ください。

- ポスターは大会期間中、大会特設ページにアップロードされ、Web フォームから質問を受け付けられるようにいたします。質問は大会終了後に発表者へ送付して回答いただき、回答を大会特設ページに掲載する予定です。
- 8月23日(日) 11:30~12:30に、オンラインでのポスター掲示と討論の場(コアセッション)として、Webカンファレンスツール Remo を用いたコアタイムを設けます。必ずしも発表者全員に参加を求めるものではありませんが、オンライン大会ならではの新たな形式として是非お試しください。
- Remo(レモ)ではインタラクティブなバーチャル空間を作成し、「仮想部屋」にいる参加者同士がリアルタイムで見て、聞いて、対話することができます。インストール不要でも参加が可能です。  
<https://remo.co/>
- 詳細については、追ってポスター発表者および大会参加者にメールでお知らせいたします。

## 5. 自主課題研究

日時：8月23日(日) 14:00~16:00

- 自主課題研究は120分間で行われます。1件ごとにオンライン会議室(Zoom)が設けられ、基本的には代表者及びメンバーが責任をもって進行ください。
- ① アスベスト・リスクコミュニケーション推進活動における環境教育的課題  
企画者：榊原洋子\* (愛知教育大学)・外山尚紀(東京労働安全センター)・南慎二郎(立命館大学)・中地重晴(熊本学園大学)・斎藤宏・斎藤清美・飯田勝泰・今井明  
\*企画代表者
  - ② コロナ禍によりオンラインでの(人と接することが困難な状況における)質的研究の可能性  
企画者：河村幸子(東京農工大学大学院)・小堀武信(日本環境教育フォーラム)、佐藤秀樹(江戸川大学)・須田玲子(早稲田大学大学院)・園田陽一(地域環境計画)・高橋宏之\*(千葉市動物公園)・長濱和代(日本経済大学)・秦範子(都留文科大学)・浜泰一(東京大学)・三島らすな(明治大学大学院)・安井瞭(土浦日本大学高等学校)  
\*企画代表者
  - ③ コロナ禍の中での公害の学び —「現地に行って学ぶこと」の困難にどう向き合うか—  
企画者：高田研\*(都留文科大学)・安藤聡彦(埼玉大学)・原子栄一郎(東京学芸大学)・古里貴士(東海大学)・三谷高史(仙台大学)・小川輝光(神奈川学園中学校高等学校)・丹野春香(東京医科歯科大学特任研究員)・川尻剛士(一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程)・林美帆(あおぞら財団)  
\*企画代表者
  - ④ 自然体験のオンライン化は何をもたらすのか? —Virtualを“事実上の”視座から捉え直す—  
企画者：中村和彦(東京大学)

## 6. 大会参加者向けイベント

- 直前講習会「オンライン大会のイメージ・トレーニング」

日時：8月21日（金）19:00～20:00

大会で使用する Zoom や Remo の操作方法を説明します。実際にシステムを使用できるので、初めての方は是非ご参加ください。

- 会員懇談会

日時：8月22日（土）16:30～17:30

会員が学会の活動方針等を理解し自由に意見を述べる機会として、ふるってご参加ください。  
なお、この懇談会の場で、2019年度の研究・実践奨励賞受賞者表彰式を行います。

- 交流企画

日時：8月22日（土）18:30～20:00

下記のテーマに分かれ、情報交換を通じて会員同士の親睦を深めます。各テーマへの出入りは自由です。  
ご希望のテーマにご参加ください。

- 新型コロナウイルスの影響による環境教育の課題とチャンス
- オンライン・ファシリテーションの事例共有
- 日本環境教育学会ユース交流会（35歳以下限定）
- その他（フリートーク）

※テーマは変更になる可能性もあります。予めご了承ください。

- 常設・特設研究会

日時：8月23日（日）

- ・ 常設・特設研究会ごとにオンライン会議室（Zoom）が設けられます。公開研究会となりますので、ふるってご参加ください。※開催時間が異なりますのでご注意ください。
- ・ 参加する際は、4ページの「(2)ミーティングルームへの入室」、「(3)参加者の皆様に必ず守ってもらいたいこと」をご確認いただき、開催中は研究会メンバーの指示に従ってください。

- ① 「3.11 以後の福島を考える」研究会（地域環境教育研究会） 17:00～19:00
- ② 環境教育プログラムの評価研究会 16:30～19:00

## ● 国際交流企画

日時：8月22日（土）10:00～12:30（Zoomにてライブ配信）

【テーマ】 Online Roundtable Session: Environmental education and COVID-19: Impact and Response  
（環境教育と COVID-19：影響と対応）

### 【プログラム（予定）】

- 各協定学会による発表
  - ・各学会、各国の環境教育における COVID-19 の影響と対応について  
（韓国環境教育学会、台湾環境教育学会、北米環境教育学会、オーストラリア環境教育学会、日本環境教育学会）
- 分科会（ブレイクアウトセッション）
  - テーマ①：環境教育の今後の方向性
  - テーマ②：コロナ禍における環境教育の役割
  - テーマ③：国際共同研究
- 全体会（分科会報告、全体まとめ）

※ 本セッションの使用言語は英語となります。予めご了承ください。

## 7. 一般公開シンポジウム

日時：8月22日（土）14:00～16:00（Zoom および YouTube にてライブ配信）

【テーマ】 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による環境教育への影響と課題

### 【プログラム】

- 挨拶：朝岡 幸彦（東京農工大学・会長）
- 趣旨説明：新型コロナウイルス対応に関する日本環境教育学会緊急方針について  
コーディネーター：阿部 治（立教大学・緊急研究プロジェクトチーム代表）
- セッション：司会：鈴木 隆弘（高千穂大学・緊急研究プロジェクトチーム副代表）
  - 報告①：学会員の環境教育活動及び研究への影響に関する緊急アンケートの結果と  
「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対応した環境教育活動に関するガイドライン」  
秦 範子（都留文科大学（非）・緊急研究プロジェクトチーム事務局長）
  - 報告②：新型コロナウイルスによる自然学校への影響と課題  
加藤 超大（日本環境教育フォーラム事務局長）
  - 報告③：コロナ禍の中で子どもたち  
住田 昌治（横浜市立日枝小学校校長）
  - 報告④：「外で遊ぶ権利」の保障と関わるスウェーデンの Covid-19 対策下での自然体験活動の現状報告  
阿久根 佐和子（森であそぼう in Stockholm 代表）

## 8. 研究発表プログラム

### <口頭発表>

\*登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

8月22日（土）9:00～10:10

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:20～	9:35～	9:40～	9:55～	10:00～	
A	幼児・児童	[22A01] 山野井貴浩 教師の自然認識は授業を介して児童の自然認識に影響するか	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[24A02] 増田直広 持続可能な地域づくりにおける幼児環境教育の意義と役割	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[24A03] 寺田光成 子供の外遊びの実態を踏まえた遊び空間の計画に関する実践研究	総合 討論 に向けた 準備	総合討論	
B	ツールの開発・実験	[22B01] 橋本康作 屋外教育における小型カメラを用いた学習者の頭部方向検出及び頭部運動遷移可視化ツールの開発		[22B02] 杉江瞬 メタンハイドレート の短時間合成及び、 合成実験を用いた授業実践の検討		[22B03] 春田一成 頭部角速度と機械学習を用いた屋外教育に対する学習者の集中・非集中判別手法の提案			
C	教育効果・影響	[22C01] 笠井利浩 何もない離島で教育効果の最大化をめざす環境教育プログラム「雨水生活体験」		[22C02] 森朋子 若者が環境分野でのシビック・アクションに至るプロセスと教育の影響		[22C03] 須田玲子 持続可能社会のための教育—学校教育における実践を通して—			
D	動物園	[22D01] 原賀いずみ 到津林間学校の成立とその変遷②児童文化と動物園教育		[22D02] 松本朱実 ナラティブを導入した動物園での環境教育プログラムのデザインと評価		[22D03] 川口芳矢 SDGs 達成に向けて動物園にできること—チンパンジーを題材にした教育プログラムを例に—			
E	奨励賞審査	[22E01] 丸谷聡美 ため池コウノトリプロジェクトにおける実践的研究		[22E02] 桑原智美 「学校のある街の風景」～心地よさを感じる緑の写真「ここぞの1枚!」を撮ろう～		[22E03] 原敬一 農業高校における地域の環境資源を最大限に活用したミツバチ教材の実践			
F	English Special Session	10:00～12:30 Online Roundtable Session: Environmental education and COVID-19: Impact and Response							[22E04]10:00-10:15 内藤光里 若者の集団での環境行動意図の規定因とその背景にある価値観・意識に関する研究

8月22日(土) 10:20~11:30

会場	テーマ	10:20~	10:35~	10:40~	10:55~	11:00~	11:15~	11:20~
A	環境学習・環境教育史	[22A04] 鎌田洋平 環八郎湖環境学習 15年の成果と課題	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[24A05] 飯沼慶一 小学校低学年環境教育史—生活科設立過程を中心に—	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[24A06] 松井晋作 環境教育と日本人	総合 討論 に向けた 準備	総合討論
B	新型コロナウイルス	[22B04] 高島駿 新型コロナウイルス感染症に対する動物園ふれあい体験の現状		[22B05] 丸谷聡子 コロナ禍における小学校教員の環境体験学習に対する認識の差異について		[22B06] 河村 幸子 環境教育としての動物園教育の現状と課題—COVID-19の影響を踏まえて		
C	公害・アースト	[22C04] 岩松真紀 公害教育と当事者性を考える(2)		[22C05] 川尻剛士 水俣病被害地域の人間形成史の枠組みに関する一考察		[22C06] 榎原洋子 深い学びに資する石綿環境教育の教材化とその実践的研究		
D	プログラム開発・実践	[22D04] 広中 歩 オンラインでのプログラム開発の実践報告		[22D05] 松田剛史 ワークショップデザイン系科目における学生の学び		[22D06] 仙田 考 オンライン家庭内栽培授業の展開、課題、可能性についての一考察		
E	奨励賞審査	[22E05] 堀川強 地域愛着形成プロセスにおける居住地域周辺環境の認知を促す学習教材の開発と実践の評価		[22E06] 矢澤大志 環境共育型ブレインストーミングを通じた大学生の環境問題に対する価値観の検証		[22E07] 三木柚香 環境教育の理念的枠組みの再構築を目指して—統合的な視座からの探求—		
F	English Special Session	10:00~12:30 Online Roundtable Session: Environmental education and COVID-19: Impact and Response						

8月22日(土) 12:30~13:40

会場	テーマ	12:30~	12:45~	12:50~	13:05~	13:10~	13:25~	13:30~
A	SDGs	[22A07] 小堂 十 自粛体験の振り返りを生かした「SDGsの学び」	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[22A08] 新井雅晶 休校中における「共生社会」を目指したSDGs時代の教育	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[22A09] 新田和宏 リーフレット「SDGsでパンデミックを乗り越えよう」	総合 討論 に向 けた 準備	総合討論
B	食・水資源	[23B07] 小柳知代 昭和初期の関東地方の郷土料理からみた地域の自然と文化の関わり		[22B08] 竹野 健次 広島県西条の水を題材とした環境教育の教材開発		[22B09] 宮脇 愛子 消費者の農と食に対する意識および行動へのコロナ禍の影響		
C	体験・自然景観	[22C07] 笹瀬雅史 登山体験からみた山の類型と学習内容		[22C08] 藤岡達也 自然景観と歴史景観を踏まえた琵琶湖及び周辺地域のジオパーク構想		[22C09] 牛崎景 野鳥の鳴き声に重点を置いた教材による身近な野鳥に関する体験・関心への継続的な効果		
D	農業・環境意識	[22D07] 阿部健一 農業の再認識：演劇でつなぐアジアの高校生		[22D08] 林隆紀 科学的知識が学生の環境意識に及ぼす影響について		[22D09] 西愛未 ヒト・動物・環境の関係についての俯瞰的理解を育成する理科教育プログラムの開発の構想		
E	教材開発・実践	[23E08] 渡部裕司 身近な生活と環境問題のつながりに気づかせる教材の開発		[23E09] 畑田彩 遠隔授業による双方向授業－Microsoft Teamsを用いた大人教講義－		[23E010] 福井智紀 外来生物問題に関する一枚市民陪審を中心とした理科教材の開発		

8月23日(日) 9:00~10:10

会場	テーマ	9:00~	9:15~	9:20~	9:35~	9:40~	9:55~	10:00~
A	ESD	[23A01] 阿部治 ESDによる地域創生 指標の開発と ESD 地域創生拠点形成		[23A02]岩本泰 持続可能な地域づく りをめざす「関係人 口」創出の意義		[24A03]齊藤雅洋 「ESDとしての地元 学」の再考—まちづ くりの思想という観 点から—		総合討論
B	野生動物・生物 多様性	[23B01] 高橋正弘 自然保護プログラム 参加者の意識の動態 について		[23B02] 佐藤秀樹 バングラデシュのク ルナ市民を対象とし た生物多様性保全の 普及啓発活動		[23B03] 本田裕子 兵庫県豊岡市におけ るコウノトリをテー マにした「ふるさと 教育」について		
C	概念・教育 学	[23C01]小栗有子 日本における土着的 環境教育(indigenous environmental education)の発見と 研究史上の位置		[23C02]大田真彦 ポリティカル・エコ ロジー論の ESD へ の貢献可能性：大学 教養科目での活用を 中心に		[23C03] 若林身歌 H.ゲプファートの 「自然に関わる教育 学」の研究		
D	放射線 教育・原 発事故	[23D01]後藤忍 家庭科での原子力・ 放射線教育に関する 研究	入れ 替え 時間/ 動作	[23D02]藤田捷太郎 原発事故後の学校統 廃合に関する研究	入れ 替え 時間/ 動作	[23D03]大沼祐里 野外活動の自粛と 「森のようちえん」 —福島県の事例から —	総合 討論 に向 けた 準備	
E	森林	[23E01] 大島順子 やんばるの林業の担 い手に対する意識調 査からみた森林資源 管理の意義と可能性	確認 など	[23E02]板倉浩幸 森林教育の成立と発 展—森林 ESD 論の 理論的検討にむけて —	確認 など	[23E03]齊藤千映美 マダガスカルにおけ る LIFE モデルを活 用した森林保全の取 り組み		
F	英語報 告部会 English Session	[23F01] Fujii Noriko Cooperative reconstruction of playgarden by kindergarten/nursery school and college		[23F02] Ermilova Marla The change in knowledge of wild edible plants among children of three generations in Minakami town, Gunma		[22F03] Yadomaru Kotoko An analysis of contents and elements of nature and agricultural experiences affecting stress coping skills		

8月23日(日) 10:20~11:30

会場	テーマ	10:20~	10:35~	10:40~	10:55~	11:00~	11:15~	11:20~
A	体験学習・主体的学び	[24A04] 高野孝子 中学生による高齢者聞き取り調査の教育的可能性	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[23A05] 桜井良 海洋学習を受けた中学生の地元の海への意識と保全意欲	入れ 替え 時間/ 動作 確認 など	[24A06] 藤盛礼恵 個を重視した環境教育～教職課程科目「生活科研究」学生の学びから～	総合 討論 に向けた 準備	総合討論
B	地域づくり	[23B04] 野村一貴 流域連携活動における「場」の共有と拡張		[23B05] ニノ宮リムさち 持続可能な地域づくりと対話の教育		[23B06] 近藤順子 ウェルビーイングの視点からみた地域に根差した教育の効果		
C	SDGs	[23C04] 村山史世 SDGs グリーンマップで描く地域の遊び仕事		[22D07] 中澤朋代 SDGs とツーリズムに関する一考察2		[23C06] 飯尾美行 国際規格 ISO14001と「地球にやさしいエンジニア」の育成		
D	地球環境問題・気候変動	[23D04] 長濱和代 地球規模課題に関するリテラシー涵養に向けた教育実践		[23D05] 宗田勝也 高校生と学ぶ気候正義—総合地球環境学の取り組みから		[23D06] 岡田 桂子 児童の頭痛及び腹痛等不定愁訴への気象変化の影響		
E	新型コロナウイルス	[23E04] 朝岡幸彦 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による環境教育への影響と課題		[23E05] 福永百合 新型コロナウイルス感染症対策と学校教育について		[23E06] 野口扶美子 COVID-19時代の地域に根差した ESDを考える		

8月23日(日) 12:30~13:40

- インターネットの不具合などで指定された時間に発表できなかった人のために予備セッションを設けます。大会実行委員会事務局に申込があった発表について、随時スケジュールを入れますが、あくまで予備セッションであるため、座長などはつかない可能性がありますのでご了承ください。

## <ポスター発表>

\*筆頭者として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

- P01 中村仁美：COVID-19 流行による学校一斉休校中における東京都練馬区・埼玉県川口市の街区公園の子どもの利用状況
- P02 片井武瑠：SDGs を題材にした里山複合プログラムの開発と可能性～富山県呉羽丘陵を事例に～
- P03 林浩二：国際博物館会議(ICOM)規約の博物館定義の改定案と SDGs
- P04 田開寛太郎：観光産業の持続的発展と ESD の実践—遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディの本格的な展開—
- P05 永野昌博：祖母・傾・大崩山ユネスコエコパークを活用した ESD の実践
- P06 梶浦恭子：大型の動物に触れる幼児の身体行為と保育者の役割
- P07 橋本庄：海洋魚類の飼育を題材とする水槽内窒素化合物の変化
- P08 星野由美子：子どもの熱意は地域を動かす！～雲南市立西小学校におけるコウノトリ学習の取り組み～
- P09 張家テキ：コーヒー粕水発酵液がコマツナの初期生育に及ぼす影響
- P10 安部尚子：プログラミングを組み入れた理科の観察学習
- P11 多田満：社会対話「環境カフェ」——5年間の歩み
- P12 田中卓也：保育者養成校における「保育内容（環境）の講義に関する考察—日本の四季、天候の理解および習得を中心に—
- P13 須藤優：里地里山の現状と保全
- P14 早川礎子：幼児の冒険遊び場を利用しない要因について—横断的調査データの解析
- P15 崔吉龍：中国の作業環境改善に関する研究

## 実行委員会名簿

- 大会実行委員長：  
中村 和彦（東京大学）
- 大会副実行委員長：  
加藤 超大（日本環境教育フォーラム）
- 大会事務局長：  
田開 寛太郎（松本大学）
- 会計：  
石山 雄貴（鳥取大学）
- 研究発表：  
桜井 良（立命館大学）
- 国際交流：  
飯田 貴也（新宿環境活動ネット）
- 交流企画：  
三木 柚香（東京大学大学院）  
太刀川 みなみ（ビーグッドカフェ）
- 奨励賞担当：  
大塚 啓太（広瀬病院）
- 実行委員長補佐：  
佐々木 啓（東京大学大学院博士課程）
- テクニカルサポート：  
林 浩二（千葉県立中央博物館）  
西村 仁志（広島修道大学）  
古瀬 浩史（帝京科学大学）
- サポート会場：  
中澤 朋代（松本大学）

## 問合せ先

一般社団法人日本環境教育学会第31回年次大会（オンライン）実行委員会事務局

E-mail: [online2020@jsfee.jp](mailto:online2020@jsfee.jp) ※お問合せ・ご連絡はメールでお願いいたします

第31回年次大会（オンライン）ウェブサイト <https://www.jsfee.jp/members/meeting/113/410>